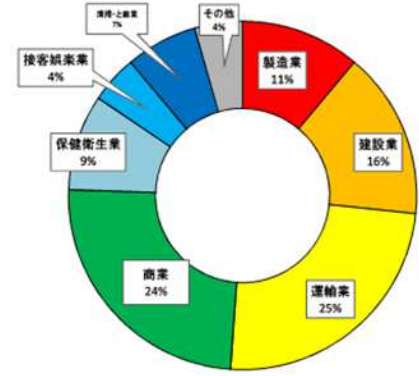


敦賀署通信（令和8年5月号）

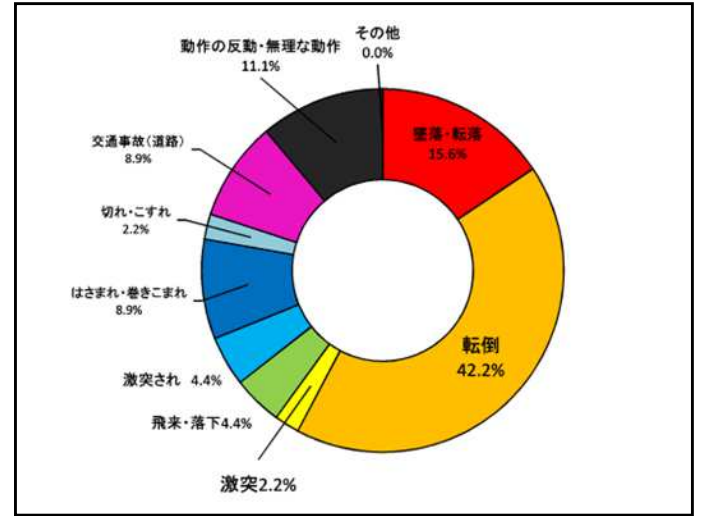
敦賀労働基準監督署管内の業種別労働災害発生状況
令和8年速報（対前年同期比較）
令和8年4月末速報

業種	休業4日以上の死傷災害				死亡災害		
	8年	7年	対前年増減	増減率(%)	8年	7年	対前年増減
全産業	45	28	17	60.7			
製造業	5	2	3	150.0			
食品製造業	1	0	1	—			
繊維工業・繊維製品製造業	0	1	-1	-100.0			
木材・木製品・家具等製造業	0	0	±0	—			
パルプ・紙・印刷・製本業	1	0	1	—			
化学工業	1	0	1	—			
窯業土石製品製造業	1	0	1	—			
鉄鋼・非鉄金属製造業	0	0	±0	—			
金属製品製造業	0	0	±0	—			
一般機械器具製造業	0	0	±0	—			
電気機械器具製造業	0	0	±0	—			
輸送用機械等製造業	0	0	±0	—			
電気・ガス・水道業	1	1	±0	—			
その他の製造業	0	0	±0	—			
鉱業	0	0	±0	—			
建設業	7	4	3	75.0			
土木工事業	2	1	1	100.0			
建築工事業	1	1	±0	—			
木造家屋等建築工事業	0	0	±0	—			
その他の建設業	4	2	2	100.0			
運輸業	11	4	7	175.0			
鉄道等・道路旅客運送業	3	0	3	—			
道路貨物運送・海上貨物取扱業	6	4	2	50.0			
その他の運輸交通・郵便運送業	2	0	2	—			
農林・畜産・水産業	0	3	-3	-100.0			
林業	0	1	-1	-100.0			
商業	11	4	7	175.0			
小売業	9	3	6	200.0			
金融・広告業	0	0	±0	—			
保健衛生業	4	5	-1	-20.0			
社会福祉施設	4	5	-1	-20.0			
接客娯楽業	2	1	1	100.0			
旅館業	0	0	±0	—			
飲食店	1	0	1	—			
ゴルフ場の事業	0	1	-1	-100.0			
清掃・と畜業	3	0	3	—			
ビルメンテナンス業	2	0	2	—			
その他	2	5	-3	-60.0			
警備業	1	3	-2	-66.7			

※ 休業4日以上の死傷災害数は労働者死傷病報告による。死亡災害は死亡災害報告による。



令和8年 事故の型別労働災害発生状況



敦賀署管内の労働災害発生状況について（令和8年4月末速報）

前年同期比で17件と大きく増加。特に、「運輸業」、「商業」で最も多く発生しており、次いで「建設業」、「製造業」の順で多く発生している。

事故の型別で見ると、全産業としては「転倒」災害が最も多く発生しており、全体の約4割超を占める。次いで、「墜落・転落」、「動作の反動・無理な動作」災害の順で多く発生しており、「行動災害」の件数目立つ。特徴的なものとして、「製造業」では機械との「挟まれ・巻き込まれ」災害、「運輸業」でトラック荷台からの「墜落・転落」災害が多く発生している。

年齢別で見ると、労働災害の約半数が60歳以上、約2/3が50歳以上の労働者が被災し、4日以上の休業となっている。

6月は熱中症クールワークキャンペーン期間中です。

敦賀労働基準監督署からのお知らせ

全国安全週間に向けて
職場の安全意識を高めましょう！

6月中は全国安全週間準備期間となっており、福井労働局では、**高齢労働者の労働災害の防止のための取組の推進**

行動災害防止対策の推進

足場からの墜落・転落災害防止対策及び貨物自動車における荷役作業時の墜落・転落防止対策の周知・徹底を重点目標として掲げ、各取組みの推進をお願いしています。

具体的な実施項目は、全国安全週間リーフレット（福井局版）を確認していただき、職場全員が一丸となって安全で安心な「ゼロ災」職場を作りましょう！



安全週間リーフレット（福井局版）はこちら

今月のトピック

建設事業無災害表彰の授与式を行いました！

西松建設株式会社が施工した建設工事が無災害で完了しましたので、建設事業無災害表彰状を授与することを決定し、令和8年5月29日（金）、厚生労働省労働基準局長からの表彰状を、敦賀労働基準監督署長より伝達しました。



敦賀労働基準監督署長 脇本 泰守（左）
西松建設株式会社 金沢営業所 所長 宮本 眞志（右）

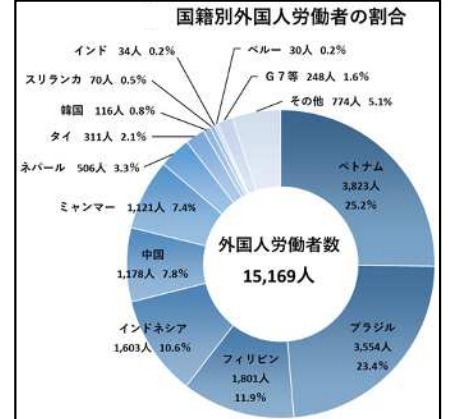
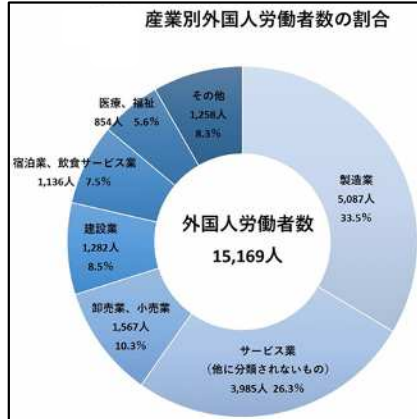
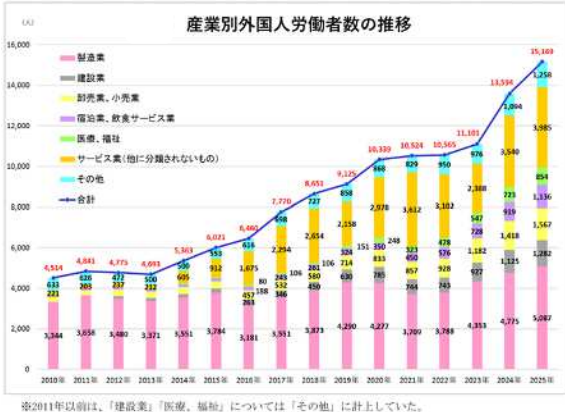
外国人労働者の安全対策について

今年の全国安全週間のスローガンの中に「多様な人材」という言葉が入っていること、また、毎年6月は「外国人雇用啓発月間」であることから、今回は「外国人労働者」に対する安全対策等について紹介します。

まず、福井県内の外国人労働者数の推移のグラフを見ていただくと、県内の外国人労働者数は年々増加しており、令和7年10月時点では15,169人も外国人労働者が働いています。

また、産業別でみると、「製造業」が最も多く、次いで「サービス業」、「卸売業・小売業」、「建設業」の順で多く外国人労働者が働いていることがわかります。対前年増加率で見ると、「宿泊業、飲食サービス業」で23.6%、「情報通信業」で19.2%、「医療、福祉」で18.1%の増加となっており、様々な産業で外国人労働者の雇用が進んでいることがわかります。

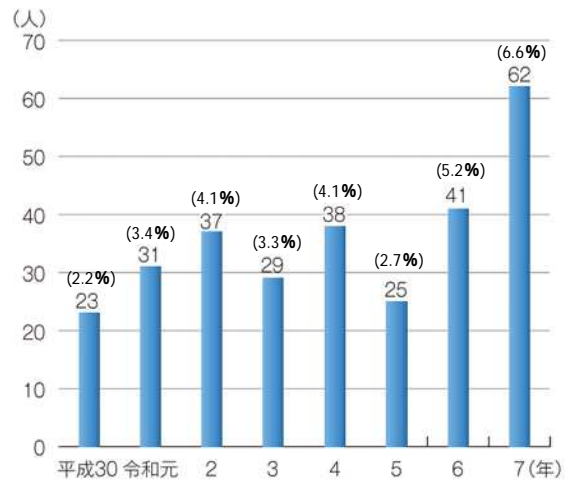
さらに、国籍別でみると、福井県内で働く外国人労働者の国籍は、「ベトナム」が最も多く、次いで「ブラジル」、「フィリピン」、「インドネシア」の順で多いことがわかります。



このような状況の中、外国人労働者の増加に伴い、外国人労働者の労働災害も増加しています。右のグラフは、福井県内における外国人労働者の休業4日以上死傷災害の推移を示したものになりますが、令和7年は対前年比約5割増となっています。

また、その年の休業4日以上死傷者数のうち、外国人労働者の占める割合も近年では大きく増加していることがわかります。

外国人労働者の労働災害発生状況の推移 (福井県内)



() は休業4日以上死傷者数のうち、外国人労働者の割合

外国人労働者の労働災害の発生率が高い要因としては、

労働災害発生率の高い業種・作業に従事する割合の偏り

業種・作業ごとのリスク

業務経験が比較的短い

未熟練によるリスク

日本語そのものの理解が不十分、コミュニケーション不足により、職場の「危険」の伝達・理解も不足

外国人労働者に特有のリスク

など複数のリスクが重なり合って発生していると考えられます。

実際に我々労働基準監督官が会社に調査で入ると、 の要因に対する対策については、業種・作業ごとのリスクであり、共通事項でありますので一般的に取り組んでいる会社が多い一方で、及び の要因については取り組みが不十分な場合が散見されるところであり、その結果として、**福井県内でも大きな災害に繋がり、被災者にも大きな障害が残ってしまったケース**もあります。

及び のリスクに対しては、「**外国人労働者が内容を確実に理解できる方法による雇入れ時教育等の実施の徹底**」が大変重要です。

外国人労働者を雇用するあなたの職場において、

- ・作業手順やルールを確実に理解できるよう母国語や視聴覚教材を活用した方法で行う
- ・使用させる機械等、原材料等の危険有害性や取扱方法は確実に理解させる
- ・標識、掲示及び表示等に図解を用いる、母国語で注意喚起語を表示する

等の取り組みは漏れなく実施できていますか？

安全週間の期間を通じて、「外国人労働者に対する安全対策」という視点でも、職場の安全点検を実施してみてください。厚生労働省では、外国人労働者に対する安全教育等で役立つ、教育用資料、マニュアルや現場で使える安全表示などの各種ツールを公開していますので、取り組みの際は是非お役立てください！

詳しくは、二次元コードからご確認ください！

